

## FRB議長とドル

サマーズかイエーレンか、来年早々に任期の切れるバーナンキFRB議長の後任の候補はどうやら二人に絞られたようだ。

FRB議長は大統領の指名人事なのでオバマ大統領の意向次第だが、議会の承認も必要になる。

そこで候補者について経済学や市場の理解度、経験、議会の承認の得やすさ、管理能力、コミュニケーション能力など諸条件の比較や、それぞれの候補者に対する支持の表明が金融業界、学会、政界などからあふれ出ている。

イエーレン支持者の多くは、サンフランシスコ連銀の総裁、FRB副議長としてのFRBの経験やFRBの理事の中でも経済見通しが一番正確だった実績を挙げている。

一方サマーズ支持者は、財務長官や副長官などキャリアの中で90年代のいくつかの通貨危機、金融危機を経験し、国際的な手腕も発揮してきた。現在のような未曾有の危機の時代には強引でもリーダーシップと力強さが必要になることを挙げている。

FRB議長は世界で最も影響力のあるポジションとされる。特に現在は非伝統的な金融政策を正常化に向かわせる出口戦略を伺う時期だ。タイミングや進め方により米国だけでなく世界経済への影響は計り知れない。

為替だけに限ってみれば強いドルは米国の利益と明言したのはクリントン政権時代のルービン財務長官だった。サマーズは副長官として、そしてルービンの後任の財務長官として少なくとも表向きは強いドルを支持していた。イエーレンについては特に為替に関する考えは聞いていない。

さて二人のどちらの可能性が高いか。

バーナンキの再選にオバマ大統領が執着しなかったのは、失業率の改善が顕著に進まなかったからだろう。その点で大統領は大胆な政策を求めているのだろう。そうなるとバーナンキ路線の踏襲の可能性が高いイエーレンよりもサマーズと言うことになる。いずれにせよ来月になればもっとはっきりする。